

県内13の高等教育機関と県、熊本市などでつくる「大学コンソーシアム熊本」は19日、地域課題の解決を目指す政策アイデアコンテストを中央区の熊本大で開き、計5個人12グループが若者の視点を生かした企画を提案した。

コンテストは、「熊本豪雨の被災地域を持続する取り組み」と「政令市移行10年が経過した熊本市のあり方」の2部門。県、市職員や識者ら審査員8人が、住民ニーズに合っているかや企画の実現性、独創性など

## 地域課題解決の政策提案

### 中央区 学生ら コンテスト

を採点した。両部門の最高賞に当たる熊本県賞は熊本高専1年の板東和寿さん、熊本市賞は熊本大文学部の3人でつくる「熊大SHIP」がそれぞれ受賞した。

板東さんは、豪雨被災地の球磨村に地域内外の人が交流できる拠点を整備し、住民共助の支援や移住者の増加につなげる仕組みを提案。熊大SHIPは、市中心部各所に着物のレンタル店を設置して観光客の回遊性を高めるほか、インターネット上に市の魅力的な写真を投稿、閲覧できるサービスを提供して情報発信力を付ける施策を発表した。(元村彩)



政策アイデアコンテストで、地域の課題解決を提案する大学生ら // 熊本市中央区